

令和6年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

第1回 令和7年7月3日(木) 午後1時30分～午後3時30分

第2回 令和7年7月7日(月) 午前10時～午前12時

第3回 令和7年8月5日(火) 午前10時～午前12時

上 田 市 教 育 委 員 会

目 次

I 趣旨		3
II 上田市教育行政評価懇話会		
III 評価の方法		4
IV 評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1 「上田市教育支援プラン」の推進		
① 確かな学力の育成(支援策1)	学校教育課	5
② 確かな学力の育成(支援策2)	学校教育課	6
③ すべての子どもに寄り添う支援	学校教育課	7
④ 学校部活動から地域クラブ活動への移行推進	学校教育課	8
⑤ 放課後児童健全育成事業の推進	学校教育課	9
⑥ 豊かな心と健やかな身体の育成	学校保健給食課	10
⑦ 小中学校のあり方の検討	教育総務課	11
2 安全・安心な教育環境の整備		
① 第五中学校改築事業	教育施設整備室	12
② 小学校トイレ改修事業	教育施設整備室	13
③ 小学校照明器具LED化改修事業	教育施設整備室	14
④ 学校施設の適正な営繕の実施	教育施設整備室	15
⑤ 学校給食施設の計画的な整備	学校保健給食課	16
3 文化遺産の保存・継承・活用		
① 上田市文化財保存活用地域計画の推進	生涯学習・文化財課	17
② 史跡上田城跡保存活用事業の推進	生涯学習・文化財課	18
③ 郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	生涯学習・文化財課 博物館	19
4 生涯学習の推進と学習環境の整備		
① 第三次生涯学習基本構想の策定	生涯学習・文化財課	20
② 地域とともにある学校づくりの充実	生涯学習・文化財課 学校教育課	21
③ 人権同和教育・啓発の推進	生涯学習・文化財課	22
④ 青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	生涯学習・文化財課	23
⑤ 公民館事業の充実	中央公民館 生涯学習・文化財課	24
⑥ 図書館サービスの充実	上田図書館 生涯学習・文化財課	25

I 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から、目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

II 上田市教育行政評価懇話会

令和6年度重点事業の評価について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、7月3日、7月7日、8月5日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の5人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏 名	略 歴	備 考
児玉 隆	元教育参事、 元第六中学校長	座長
柴田 隆一	元中央公民館社会教育指導員、 元西部公民館社会教育指導員、 元西小学校長	副座長
小駒 はるみ	上田市博物館協議会委員、 元上田市地域情報化推進委員	
西澤 むめ子	元上田市社会教育委員、 元上田市塩田の里交流館館長	
町田 龍一郎	元筑波大学生命環境系教授、 上田市文化財保護審議会委員	

Ⅲ 評価の方法

令和6年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからCまでの3段階による評価を行いました。

【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。

Ⅳ 評価の結果及び懇話会の提言内容等

令和6年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

令和6年度 事業評価シート

1-①

事業名	確かな学力の育成（支援策1）	担当課	学校教育課
当初目標	(1)すべての児童生徒にとって「わかる・できる授業」につなげる授業改善を行います。 (2)多層指導モデルMIM (Multilayer Instruction Model) の活用による「読み」の向上を図ります。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1)授業改善の推進		
	学力向上委員会の開催（4回）	0	
	授業を語る会の開催（3回）	0	
	小中連携教員の配置（4校）	11,774	
	(2)MIMスタート研修（2回）	0	
	モデル授業・研修・懇談会を開催（4回）	0	
MIMオンライン相談会（3回）	0		
目標の達成状況	(1)全校から選出された学力向上委員（主に研究主任）が、自校の学力検査を分析、校内の中心となり自校の授業改善に取り組むほか、学力向上委員会に出席し、他校の好事例を学び自校の授業改善に活かしています。 授業を語る会に参加した教員からは、経験豊富なファシリテーターや他校教員と語り合い、さまざまな考え方や価値観に触れることで、悩みや迷いが解消され、授業改善への意欲が高まったとの評価を受けています。 中学校教員が小学校に出向き授業を行う取組に対しては、小学生から学習意欲の向上、進学の不安軽減につながったとのアンケート結果が出ています。 (2)特別支援教育担当指導主事とMIM支援員が全小学校を訪問し、模擬授業、個別の配慮計画作成支援に取り組みました。MIMの活用により、児童が楽しみながら学び、「読み」、さらに学習意欲の向上につながっています。		
総合評価	B		
今後の課題等	(1)確かな学力の育成のためには、児童生徒の実態を分析した戦略的な取組が大切です。各種学力検査の結果を活用し、結果の経年推移や自校の課題を分析した授業改善、教員同士の学び合いなど、教員の意識改革と指導力向上を図る取組を継続して行う必要があります。 (2)平成29年度にMIMを導入し8年が経過しました。定着した状況もありますが、市独自の取組でもあるため、指導主事による継続した学校訪問、定期的なMIM-PM（アセスメントテスト）を実践し、学習の基礎となる「読み」の向上に取り組む必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①MIMなどの独自の取組等により、「読み」の力向上に確実な成果が表れている点を評価します。今後は、高学年、中学生に対しても、MIMの成果を活かした「読み」の力向上につながる取組が必要であると考えます。 ②「授業を語る会」は、教員の悩みや迷いが解消され、授業改善への意欲が高まる取組であり、高く評価します。 ③中学校教員が小学校へ出向き授業を行う取組については、子どもたちの学習意欲の向上だけでなく、教員の指導力向上にもつながるため、非常に評価できる取組と考えます。一方で、中学校にとっては「中1ギャップの解消」だけでなく、先行投資としてどのようなメリットがあるのかを中学校教員にも理解していただきながら進めることを望みます。	
	意見に対する考え方	①現在、小学校4年生までを対象にMIMを実施しておりますが、「読み」は全ての学習の基礎となりますので、MIMをはじめとする様々な取組や成果を活かして児童生徒の読みの力向上に努めてまいります。 ②教員のニーズに応じて、教員や様々な有識者と意見交換等を行う機会を創出し、教員の悩みや迷いが解消されるよう、取り組んでまいります。 ③小学校で授業を行う中学校や担当教員の負担軽減に努めるとともに、連携授業の実施による効果を小中学校が共に感じていただける事業となるよう理解を促し、改善を図ってまいります。	
今後の方針等	(1)学力の定着・向上のためには、「わかる・できる」を実感する授業改善と教員の指導力向上が欠かせません。今後も本事業を発展充実させ、デジタルの力も活用し、学力の定着と向上を図ります。 (2)「読み」の力向上は、学習意欲全体の向上にもつながります。引き続き全市的にMIMの取り組み成果等を活かし、効果的な学習が進められるよう支援していきます。		

令和6年度 事業評価シート

1-①

事業名		確かな学力の育成（支援策2）		担当課	学校教育課
当初目標		GIGAスクール構想により「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、ICTを活用した効果的な授業を推進します。			
具体的な取組	実施状況			事業費 (千円)	
	学校ICT支援員の配置（9人）			50,434	
	スクールICTスタッフの配置（7人）			28,407	
	1人1台端末活用支援サイト「上田GIGAスクールサイト」の更新			0	
	夏季情報教育研修会（1回）、ICT夏季研修会（3回）の開催			15	
	情報教育主任会の開催（4回）、ICT活用に関わる情報交換			0	
	デジタル採点システム研修会（3日間）の開催			0	
	授業支援システムのトライアル実施			0	
目標の達成状況		児童生徒に1人1台端末が整備され4年が経過し、各校では授業時のICT活用が進んでいます。 ICT支援員を国基準（4校毎に1人）に基づき9人配置、全小中学校に週1日滞在可能な体制を整え、ICT機器の準備、授業中の操作支援、アプリ活用の提案や研修等、教員のICT活用を支援しました。 スクールICTスタッフ7人の配置を通じ、ヘルプデスクによる遠隔操作、ウィルス対策、情報モラル及びプログラミング授業への支援等、学校現場の情報教育推進を支援しました。 令和3年度から「上田GIGAスクールサイト」を開設、授業で使える教材や各校の実践事例等、内容を随時更新しました。 ICT活用推進を目的とした各種研修会は計画どおり実施しました。 これらの取組で、令和6年度の全国学力学習状況調査において「授業でICTをどの程度利用したか」の問いに、「週3日以上」と回答する児童生徒の割合が前年度を上回り、全国、長野県の平均値を超えています。			
総合評価		B			
今後の課題等		(1)授業時のICT機器活用が進んでいますが、友達と考えを共有、協力しながら学習を進める「協働的な学び」の場面での活用に課題があります。効果的な使用に向け、教員支援が必要です。 (2)児童生徒にとってICT機器が身近になる一方、情報モラル、適切な取り扱いを学ぶ、情報リテラシー教育が必要です。			
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①ICT支援員やスクールICTスタッフが採用され、授業におけるICT機器の活用が積極的に進められている点を評価します。ICT活用には良い面と悪い面があることから、適切な場面でICT機器を活用した授業が行われることを期待します。 ②「協働的な学び」の場面での活用に課題があると認識されているとおり、ICTが人との関わりを断絶することのないよう注意しつつ、多様な意見を共有するツールとして活用していくことが重要です。			
	意見に対する考え方	①ICTの活用については、先進的な取組事例等を参考に効果的かつ適切な使用による授業づくりや児童生徒が情報を適切に収集、評価、利用等を行える能力の育成に努めます。また、直接的な対話による課題解決の大切さについて理解を促し、ICTの活用の場面を選定してまいります。 ②「協働的な学び」の場面でのICTの活用については、体育での体の動きの確認やプレゼンテーション資料の作成などがございますが、人と人との関わりを大切に授業づくりに努めてまいります。			
今後の方針等		(1)「協働的な学び」をテーマとした、実践発表、情報交換を情報教育主任会や研修会等で取り上げ普及を図るとともに、授業支援システムのトライアルを実施し「協働的な学び」のサポートを行います。 (2)さまざまなツールも活用した情報リテラシー・情報モラル教育を実践していきます。			

令和6年度 事業評価シート

1-②

事業名	すべての子どもに寄り添う支援	担当課	学校教育課
当初目標	(1)相談体制を整備し、いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への寄り添った支援を行います。 (2)保護者、学校、民間施設が連携し、不登校児童生徒への伴走型支援を行います。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1)教育相談所による全校訪問		0
	スクールソーシャルワーカーのスクリーニング会議への参加(32校)		0
	(2)信州型フリースクール等の民間施設(5施設)との連絡会開催		0
	不登校児童生徒等の新たな学びの場「オープンドアスクール」の設置検討		0
目標の 達成状況	(1)教育相談所による全校訪問を実施し、各校の不登校・不適応対応の体制確認と助言を行うことで、全校統一した支援体制を整えました。また、支援が必要な児童生徒を訪問時に確認し、来所相談、電話相談、訪問相談につなげました。 スクールソーシャルワーカーが出席する校内スクリーニング会議を32校で実施し、具体的な支援や連携する外部機関を明確化しました。 (2)市内で開所している民間施設との連絡会を開催し、不登校支援に関する現状の共有を行い、相互連携関係を確認しました。 不登校児童生徒や学び直しのニーズに対応するため、新たな支援策である「オープンドアスクール」の設置検討に着手しました。		
総合評価		B	
今後の課題等	(1)不登校児童生徒数の増加や、悩みを抱える児童生徒を取り巻く環境の複雑化等に対し、新たな学びの場の選択肢の創出や関係機関、民間施設と連携した支援体制の充実強化が必要です。 (2)「民間施設等に関するガイドライン」を適切に運用するため、学校、教育委員会及び民間施設が連携・協力していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①いじめや不登校に関する相談件数が年々増加する中、教育相談所による全校訪問等、一人ひとりに寄り添った支援を行っている点を評価します。 ②市内の民間施設と連携して、学校や親とは違う価値観を持つ大人との出会いの場を子どもたちに提供している点を評価します。今後も、増加している不登校児童生徒や外国籍の子どもたちが、誰ひとり社会から取り残されることがないように、多様な学びの場が創出されることを望みます。 ③授業内容が分からず、ついていけない子どもたちへの支援についても丁寧に行っていただくことを望みます。	
	意見に対する考え方	①相談内容が多様化しておりますが、不登校やいじめに関わる全ての児童生徒一人ひとりの実情に合わせた丁寧な支援をきめ細やかに行ってまいります。 ②民間施設等との連携を強化し、官民一体となって様々な困難を抱える児童生徒の社会的自立を促す取組を推進してまいります。 ③特別な配慮を要する児童生徒には少人数、または、個別の対応によって学習の定着を図ってまいります。	
今後の方針等	(1)教育支援センター化による連携の強化、組織的・継続的な支援を進めます。また、校内スクリーニング会議を推進し、関係機関の連携強化を図り、支援を必要とする児童生徒の早期把握、環境の改善等、個々の状況に応じた支援を行います。 (2)学校、教育委員会、民間施設、また民間施設同士による連携を進めるとともに、新たな学びの場等の創出を図り、一人ひとりに寄り添った支援体制づくりを行います。		

令和6年度 事業評価シート

1-③

事業名	学校部活動から地域クラブ活動への移行推進	担当課	学校教育課
当初目標	(1) 地域クラブ活動への移行を見据えた「中学校に係る部活動方針」を策定します。 (2) 子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術に親しめる環境整備を検討します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	上田市地域クラブ活動推進協議会（3回）		111
	市スポーツ協会との連携強化		0
	周知啓発リーフレット及び指導・協力者募集チラシの配布		0
	学校教職員向け説明会（1回）		0
	市ホームページによる情報提供		0
	県総括コーディネーター訪問支援の活用		0
	東信地区地域担当者会での情報交換		0
目標の 達成状況	合同チームからのクラブチーム化や単独校でのクラブ立ち上げなど、市内各地において地域クラブ活動に向けた動きが出ています。 これらの現状を踏まえ、地域クラブ活動推進協議会において論点整理を行い、地域移行を見据えた「中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針」を改定しました。 また、当市の地域移行の目指す姿と、新たな活動場所のタイプを協議決定し、令和8年度末を目途にした取組を推進するため「上田市部活動地域展開推進計画」を新たに策定しました。		
総合評価		B	
今後の課題等	新たな活動団体の運営主体の設定、活動場所や指導者の確保、移動手段、持続可能な活動とするための負担のあり方など、今後検討すべきさまざまな課題があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	部活動の地域展開については、子どもたちのためだけではなく、教員の負担軽減を図ることで教員志望者の増加を促し、教員不足の解消にもつながる重要な取組であると考えます。子どもたちが、文化や芸術に触れる機会を確保することは重要であることから、今後も、教育委員会が方向性を示しながら、着実に地域展開が進められることを期待します。	
	意見に対する考え方	部活動が地域展開されることによって、これまで以上に中学生が様々なスポーツや文化芸術活動に触れられる機会を創出できるよう、市民の皆さんに協力をいただきながら着実な地域展開の推進に努めてまいります。 また、積極的な情報発信を行い、小・中学生や保護者等の不安の解消を図るとともに、指導者の確保に努めてまいります。	
今後の方針等	地域展開コーディネータを新たに配置し、教育委員会と市長部局の連携を深め体制整備を行い、地域クラブへの移行促進を図ります。 運動系と文化系など、個々の特性を考慮し、移行時期を一律に適用せず、その種目や地域の実情に応じて弾力的に進めます。		

令和6年度 事業評価シート

1-④

事業名	放課後児童健全育成事業の推進	担当課	学校教育課
当初目標	(1)「児童館、児童センター」及び「放課後児童クラブ」指定管理者の更新を行います。 (2)施設の安全点検と計画的な修繕を実施します。 (3)施設の計画的な改修を行います。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1)令和7年度からの指定管理者選定と決定 (児童館・児童センター10施設、児童クラブ20施設)	0	
	(2)特定建築物等定期点検、年間を通じた修繕の実施	2,310	
	(3)川辺町児童センタートイレ洋式化工事の実施	821	
目標の 達成状況	(1)令和7年4月1日から令和12年3月31日までの指定管理者を公募。指定管理者候補者選定委員会の審議、市議会の議決を経て、指定管理者を決定しました。（「児童館・児童センター」9施設を「上田市社会福祉協議会」、「児童クラブ」20施設・「児童館」1施設を「労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター事業団」） (2)特定建築物等定期点検（児童館1館、放課後児童クラブ3施設）、児童センター、児童クラブの修繕を適宜実施し、保育環境を改善しました。 (3)川辺町児童センタートイレ洋式化において、個別施設計画の改定を行い、計画どおり工事を完了しました。		
総合評価	B		
今後の課題等	令和7年度からの指定管理者による施設管理と運営が、市が示す「仕様書」、利用者要望も踏まえ、適切に実施されているか確認が重要です。 老朽化の進む放課後児童施設が多い状況から、計画的に修繕を実施し、保育環境を整えていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	事業の必要性、有効性が大いに認められます。これからも子どもたちが安心出来る居場所となるよう、施設の老朽化等の問題に対しては、運営者からの意見を十分に聞き、協力して対応することを望みます。	
	意見に対する考え方	施設の利用希望者が増加傾向にあり、計画的な施設整備等の実施や運営団体との情報共有や意見交換を行い、利用する児童が安心できる居場所となるよう適切な施設運営につなげてまいります。	
今後の方針等	現地調査とモニタリング調査を実施、利用者サービスの向上、適切な施設管理と運営がされているか確認し、必要な指導助言を行っていきます。 放課後児童施設の特定建築物等定期点検を実施し、点検において指摘された事項について、計画的な修繕を行い、児童の安全に影響を及ぼすような危険・破損箇所には優先的な修繕を行います。		

令和6年度 事業評価シート

1-⑤

事業名	豊かな心と健やかな身体の育成	担当課	学校保健給食課
当初目標	(1) 学校における食育を推進します。 (2) 児童生徒の食や健康状態がわかる各種調査の実施及び結果分析、情報共有を行います。 (3) 児童生徒の健康づくりを推進します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 栄養教職員と連携した食育指導の実施及び食に関する情報の提供	0	
	(2) 第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応食（代替食）の提供開始	0	
	(3) 生活習慣病予防検診等の結果分析及び各学校の養護教諭へ報告	0	
	(4) 健康づくりに関する資料の作成及び各学校への配布	0	
目標の 達成状況	(1) 栄養教職員と連携し、「自分の適正量を知ろう」をテーマにバランスよく喫食する食育指導を実施するとともに、市内統一の指導資料を作成し、各家庭に配布しました。 (2) 第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応として、卵と乳の除去食に加え、6月から代替食の提供を開始しました。（例：オムレツ→照焼チキン） (3) 生活習慣病予防検診等の結果について市内の状況を取りまとめ、各学校の養護教諭へ報告しました。 (4) 健康づくりに関する資料を作成し、生活習慣病予防検診のフォロー等の健康指導に活用できるよう各学校へ配布しました。		
総合評価	B		
今後の課題等	(1) 食生活において児童生徒が自分の成長に必要な栄養を身に付けるためには、食育指導と食に関する情報提供等の継続的な取組が必要です。 (2) 食物アレルギーを持つ児童生徒が、学校給食においてより多くの献立を楽しみ、必要な栄養が摂取できるように、第二学校給食センターにおいては対応食の充実を図るとともに、安全に提供するための体制整備が必要です。 (3) 児童生徒の健やかな身体の育成のため、各種健康診断の事後フォローを実施し、養護教諭を中心とした健康教育への支援を継続する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①第二学校給食センターにおいて、食物アレルギーを持つ児童生徒に対し、除去食や代替食の提供等、きめ細かな対応を行っている点を高く評価します。 ②生活習慣病予防検診の結果について、保護者に情報共有することにより、子どもの健康状態を認識し、家庭での健康状態改善への取組につながると考えます。	
	意見に対する考え方	①第二学校給食センターのアレルギー対応については、品目や提供回数を増やせるよう検討を進めるとともに、栄養教諭や学校教職員との連携を強化して、より安全な食事環境を整えてまいります。 ②生活習慣病予防検診の結果については、市全体の分析となっており、個別の結果は各学校の養護教諭が中心となり個別指導や個別相談を行っています。その際に使用できる指導資料を作成し各学校へ配布しました。今回の御意見を含め、実際の活用状況等を勘案しながら、指導資料の充実を図るとともに、子どもたちの健康を支える取組を進めてまいります。	
今後の方針等	児童生徒の食育および健康教育については、栄養教諭・養護教諭をはじめ学校教職員と課題を共有し、引き続き連携していくことが重要です。また、第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応については、安全な提供を大前提として、品目の選定や回数の検討及び体制の整備を進めてまいります。		

令和6年度 事業評価シート

1-⑥

事業名		小中学校のあり方の検討	担当課	教育総務課
当初目標		令和3年3月に上田市小中学校のあり方検討委員会が策定した「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」を踏まえて、少子化に対応した望ましい教育環境を確保するための方策について検討を進めます。		
具体的な取組		実施状況		事業費 (千円)
		先進自治体の視察		32
		他市町村の事例調査		0
目標の達成状況		「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」の中で、望ましい学校規模を確保するための方策の一つとして掲げられている小中一貫教育について、実際の運営状況等を把握するため、令和3年に義務教育学校を開校した群馬県太田市へ先進地視察を実施し、学校規模及び学校配置の適正化に対する基本的な考え方や、義務教育学校開校までの経過、学校の特色等について説明いただきました。 視察や、県内各市及び近隣自治体の取組等について調査する中で、学校再編を行う場合は、学校が地域コミュニティの核となる場であることを踏まえ、行政が一方的に進めるのではなく、保護者や地域住民からの意見聴取等を行いながら段階的に進めることが重要であることを再確認しました。		
総合評価		B		
今後の課題等		学校の小規模化は今後も続くことから、子どもたちの望ましい教育環境の確保に向けて取組を継続していくことが必要です。この取組に当たり、学校の小規模化や学校施設の老朽化のほか、さまざまな悩みを抱える子どもたちに対する切れ目のない支援や学びの環境創出など教育を取り巻く課題について、全市的な共通課題として市民に理解をいただく必要があります。 また、地域と学校が共に歩んできた歴史的経緯から、保護者や地域住民にとって統合を含む学校再編の検討に向き合うことは重い課題となりますが、子どもたちが安心して新しい学校に通えるようにするために再編前後で行う取り組み事例やその効果・成果などを直近の具体例も交えて示したり、保護者や地域住民、児童から十分な意見聴取等を行ったりといった取組を含め、理解と合意に向けて丁寧に段階的に取り組む必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	学校の役割として、子どもたちの成長だけでなく、地域を支え、地域住民の生きがいとなるような「地域とのつながり」も重要だと考えます。学校数が減り、通学区が大きくなる中で、地域とのつながりがどうなるのか懸念されるため、学校再編と同時に、地域との関係づくりも進めていくことを望みます。		
	意見に対する考え方	学校統合により通学区が広がることで、学校と地域との関係が希薄化するのではないかという課題については、全国のモデル事例を参考にしながら、地域とのつながりを深めていくことを検討してまいります。 そのほか、再編に当たって生じる課題については、多角的な視点から解決に向けた最大限の配慮をしてまいりたいと考えます。		
今後の方針等		少子化に対応した望ましい教育環境を確保するための方策について、多くの学校が施設の老朽化に伴い維持経費が増加していくことや改築時期を迎えていくことなどを踏まえ、庁内で連携して具体的な学校再編（適正規模・適正配置）を検討していきます。		

令和6年度 事業評価シート

2-①

事業名	第五中学校改築事業	担当課	教育施設整備室
当初目標	年度内に校舎棟建設を竣工し、屋内運動場等実施設計を完了します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1) 校舎棟建設工事		2, 119, 212
	(2) 校舎棟建設工事 監理業務委託		29, 220
	(3) 屋内運動場ほか実施設計業務委託		35, 420
	(4) 仮設校舎リース (令和8年度末まで)		6, 066
目標の 達成状況	(1) 事業計画通りに校舎棟建設を完了しました。 (2) 計画通り工事が進められるように校舎棟建設に必要な工事監理業務の委託について、校舎完成に伴い完了しました。 (3) 屋内運動場のほか、西棟改修およびプール改築にかかる実施設計業務を委託し、設計が完了しました。 (4) 令和4年度に建設した仮設校舎をリース契約により引き続き使用しています。		
総合評価		B	
今後の課題等	令和9年度末の事業完了に向け、今後の旧校舎棟及び既存プールの解体工事（令和7年度）、屋内運動場及びプールの建設（令和7年度から9年度）、西棟改修工事（令和8年度）、外構工事（令和9年度）について、徹底した工程管理を行う必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	計画通り事業を遂行、完了していることを高く評価します。今後の体育館等の工事においても、生徒の教育環境に配慮しながら、施設整備を進めていただくことを期待します。	
	意見に対する考え方	引き続き、教育環境や安全管理等の徹底を図りながら、計画通りに改築が進むよう工程管理を行っていきます。	
今後の方針等	入札、契約、工事着工を確実に実施し、解体及び建設工事中の監理をしっかりと行うとともに、学校生活に支障がないよう安全管理等を徹底します。		

令和6年度 事業評価シート

2-②

事業名	小学校トイレ改修事業	担当課	教育施設整備室
当初目標	特定財源の確保に努め、トイレ洋式化率の低い小学校2校（川西小、浦里小）の改修工事を実施します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	川西小学校トイレ改修工事	70,763	
	浦里小学校トイレ改修工事	28,523	
目標の 達成状況	トイレ環境の整備を行ったことで衛生面での環境向上が図られ、和式便器が使えない児童のトイレ利用が容易となりました。また、洋式化に合わせて配管設備などの更新もされたことで経年劣化対策ができました。		
総合評価		B	
今後の課題等	多くの小中学校トイレ改修が急務となる中、特定財源の追加補正や国・県の方針転換に備え実施設計を順次進めていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①限られた予算の中で、各校の状況に応じて改修工事を行う学校を選定し、順次改修工事を進めている点を評価します。トイレの老朽化は、児童生徒や教員の衛生環境の改善という面からも重要な課題であるため、今後も順次改修工事が進められることを期待します。 ②男女のトイレの広さが同じでも個数が同じとは限らず、女子のトイレの個数が少ない場合があるため、改修に当たっては面積ではなく個数への配慮を望みます。	
	意見に対する考え方	①引き続き、衛生環境の改善のほか、児童生徒及び教職員の学校生活に支障がないよう配慮をしながら整備していきます。 ②男女トイレの個数についても男女間で不都合がないよう配慮しながら進めていきます。	
今後の方針等	多くの特定財源確保に努めるとともに、社会情勢の変化などについて、情報を漏らすことなく収集するとともに、早期の学校環境改善のため、計画的に整備を進めます。		

令和6年度 事業評価シート

2-③

事業名	小学校照明器具ＬＥＤ化改修事業	担当課	教育施設整備室
当初目標	市内小学校12校の校舎棟、屋内運動場、グラウンドの照明器具をＬＥＤに改修します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	小学校12校の照明器具のＬＥＤ改修（令和7年4月から10年リース）	0	
目標の 達成状況	年度内に小学校12校全ての照明器具を改修したことで学習環境の改善が図られ、ＬＥＤ照明としたことで省エネも図られました。 また、工事による改修ではなく、リース発注としたことで事業費の削減と予算の平準化が図られました。		
総合評価		B	
今後の課題等	蛍光灯及び水銀灯などの製造中止により、市内残りの小学校も校舎棟や屋内運動場の照明器具をＬＥＤ改修する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	事業費の削減と予算の平準化に配慮しながら計画的に事業を進めている点を評価します。	
	意見に対する考え方	令和7年度に実施する残りの小学校施設の照明器具ＬＥＤ化も計画的に進めるとともに、事業費の削減等にも努めていきます。	
今後の方針等	学習環境改善及び省エネの推進のため、残り11校の小学校においても計画的に整備を進めます。		

令和6年度 事業評価シート

2-④

事業名	学校施設の適正な営繕の実施	担当課	教育施設整備室
当初目標	各学校からの営繕要望に対し、営繕実施の可否について判断の上、経費圧縮に努めながら、迅速かつ適切な事業の推進をします。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	小学校施設修繕 89件		15,738
	小学校施設営繕工事 46件		37,305
	中学校施設修繕 30件		12,006
	中学校施設営繕工事 10件		6,905
目標の達成状況	学校要望に基づく学校施設営繕については、必要の有無及びコストの面を検討した上で、予算の範囲内において効果のある工法を採用し迅速かつ適切に実施することができました。 特色のある事業としては、小学校費では傍陽小に増設される特別支援教室の改修工事、武石小のプールろ過循環装置改修工事・電話交換機改修工事他、3校の保健室等へエアコンを設置しました。中学校費では丸子北中の給水ポンプ改修工事を実施しました。		
総合評価		B	
今後の課題等	学校施設の多くは老朽化しているため、学校運営に支障をきたさないよう、今後も引き続き設備の更新や適切な営繕に努めていく必要があります。また、トイレ改修や中学校に続いての小学校照明LED化などを計画に沿って実施していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①限られた予算の中で適切な修繕・営繕工事が実施されたことを評価します。 ②プールについては多額の営繕費が掛かることから、限られた予算の有効活用により多くの学校要望に応えられるよう学校プールのあり方の検討を進めることを望みます。	
	意見に対する考え方	①引き続き、限られた予算において緊急および重要な度合いを適切に判断した上で、効率よく効果のある修繕・営繕工事を実施していきます。 ②本年度に試行される民間施設等を利用したプール授業の結果を踏まえ、プールにかかる営繕費の削減を図ります。	
今後の方針等	児童、生徒及び教職員の安全・安心な学習環境を整えるために、学校要望に基づく営繕について、専門知識を有する職員が緊急・必要の度合について現地確認の上判断し、コストの削減にも努めながら、今後も効果的かつ計画的な営繕に努めます。		

令和6年度 事業評価シート

2-⑤

事業名	学校給食施設の計画的な整備	担当課	学校保健給食課
当初目標	(1) 老朽化に伴い改築した第二学校給食センターの旧施設について、年度内の解体工事を計画的に進めます。 (2) 第一学校給食センターの改築に向け、候補地となりえる土地の調査・検討を行います。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 第二学校給食センター改築事業 解体工事	135,388	
	旧第二学校給食センター 低濃度PCB廃棄物収集運搬及び処分	451	
	(2) 第一学校給食センター改築事業用地の調査・検討	0	
目標の達成状況	(1) 旧第二学校給食センターの解体工事を令和7年2月に完了しました。また、旧施設に保有していた低濃度PCBを法令に基づき適正に処分しました。 (2) 土地利用検討会議において、第一学校給食センターの候補地について協議を行いました(5月、2月)。また、関係機関へ調査を実施し、候補地の絞り込みを行いました。		
総合評価		B	
今後の課題等	(1) 第二学校給食センターの駐車場を整備するため、外構工事を計画的に進める必要があります。 (2) 昭和63年築で老朽化が著しい第一学校給食センターについて、第二学校給食センターの改築スケジュールを参考に改築の検討を進める必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	旧第二学校給食センターの解体工事を計画どおり完了したことを高く評価します。	
	意見に対する考え方	第二学校給食センターについては、令和7年度は外構工事を予定しておりますが、引き続き計画的な事業の実施に努めてまいります。 第一学校給食センターについては、建設候補地や施設整備等における課題を踏まえながら、改築に向けて検討を進めてまいります。	
今後の方針等	(1) 令和7年度に外構工事を終わられるよう、入札、契約、工事着工を確実に実施します。 (2) 第一学校給食センターの候補地及び実施時期の検討を進めます。		

令和6年度 事業評価シート

3-①

事業名	上田市文化財保存活用地域計画の推進	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	(1)文化財の保存に向けた取組を推進します。 文化財の市指定・国登録の推進（2件以上） 防災・防犯を含む保存事業の推進 (2)文化財の積極的な活用を推進します。 仏像詳細調査の実施及び特別展の開催 文化財de文化祭の開催（2回）		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1)文化財の保存		
	市指定に向けた調査・審議、国登録に向けた意見具申		97
	文化財修理、防災・防犯対策の支援		2,903
	(2)文化財の活用		
	仏像詳細調査を実施、特別展「ハッケン！上田の仏像」を開催		4,801
	中禅寺薬師堂茅葺屋根葺替工事の現地見学会を開催		0
	文化財de文化祭を開催（2回：旧倉沢家住宅、前山寺本堂）		500
目標の達成状況	(1)文化財の市指定に向け7件の諮問を行い、調査・審議・答申を経て5件を11月に指定しました。国有形文化財への登録にあたり、8月に1件が登録されたほか、2件の意見具申を行いました。また、1件について意見具申の準備を進めています。 中禅寺薬師堂茅葺屋根修理、信濃国分寺三重塔防災設備更新、大明神寮耐震診断、長福寺銅造菩薩立像防犯設備更新事業に対し支援や補助金の交付を行いました。 (2)仏像調査では、23箇所43体の詳細調査及び写真撮影を実施、3年間の調査（70箇所、172件）が終了しました。また、上田市立美術館と連携し、特別展「ハッケン！上田の仏像」を1月11日から3月9日まで開催し、8,637人に観覧いただきました。 茅葺屋根の葺き替えを実施した中禅寺薬師堂において現地見学会を開催し、30人の参加がありました。文化財de文化祭は、10月に旧倉沢家住宅でコンサートを開催し、40人の参加がありました。また、12月には前山寺本堂でクラシックコンサートを開催し、40人の参加がありました。		
総合評価	A		
今後の課題等	文化財の保存とともに積極的な活用を図るため、文化財de文化祭のほか文化財修理時や国登録の際などの機を捉えた見学会等、文化財を活用した事業を、文化財所有者や地域住民・市民団体と協働しながら継続して進めていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①当初の目標を大きく上回る文化財の市指定を受けたことを高く評価します。今後も文化財として後世に引き継いでいくため、これまで指定された市の文化財の管理状態について、定期的に所有者への現状確認が必要と考えます。 ②仏像展「ハッケン！上田の仏像」開催は、地域の誇りであるシビックプライドの向上に大きく貢献したと考えます。徹底した調査に基づいた分かりやすい発表形式も大変素晴らしいものであり、多くの方に来場いただけたことを評価します。	
	意見に対する考え方	①地域の宝である文化財を未来につなぐため、「上田市文化財保存活用地域計画」に基づく調査や保存、活用を所有者や専門機関、市民の皆さんとともに進め、地域総がかりで取り組んでいきたいと考えています。また、市指定文化財については、定期的な文化財パトロールを実施し、現状確認や課題の把握に努めていきます。 ②平成28年から取り組んだ「仏教美術（仏像）悉皆調査」の成果を上田市立美術館と連携し特別展として公開することで、仏教文化財をはじめとする上田の魅力を広く発信できたものと実感しております。また、調査及び展覧会によって文化財所有者の方の意識が一層高まったこともあり、本事業は大変意義深いものにとらえています。引き続き、文化財の活用による地域の魅力の向上に努めていきます。	
今後の方針等	「上田市文化財保存活用地域計画」に基づき、地域に残る貴重な文化財を将来に向けてより良い姿で保存するとともに、地域振興につながるような活用を積極的に推進します。 文化財所有者や地域住民に、文化財の価値を再認識してもらうために、官民協働による事業を推進します。		

令和6年度 事業評価シート

3-②

事業名	史跡上田城跡保存活用事業の推進	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	史跡上田城跡の保存管理や整備の基本方針となる「史跡上田城跡保存活用計画」の文化庁認定に向けて取り組みます。武者溜り整備事業を具体化するため、整備予定地の発掘調査や「史跡上田城跡整備基本計画」の改訂を実施します。また、「史跡上田城跡整備専門家会議」や文化庁協議を実施します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1) 史跡上田城跡整備専門家会議の開催、文化庁協議の実施		592
	(2) 発掘調査（冠塀台石垣跡、三十間堀跡）		5,900
	(3) 「史跡上田城跡整備基本計画」の改訂		0
	(4) 旧市民会館記録保存調査の実施		799
	(5) 資料調査（古写真、古文書等）		26
	(6) 市民や学校等と連携した魅力発信の取組		0
	(7) 上田城トークショーの開催		1,200
目標の 達成状況	(1) 「史跡上田城跡整備専門家会議」を2回、文化庁協議を3回実施し、武者溜り整備事業や発掘調査、整備基本計画（案）に対する意見聴取や協議を行いました。また、「史跡上田城跡保存活用計画」が11月に文化庁の認定を受けました。 (2) 発掘調査を実施し、冠塀台石垣跡の遺構を確認しました。8月には現地説明会を開催し、90人の参加がありました。 (3) 「史跡上田城跡整備基本計画」の改訂作業を進めました。 (4) 解体を予定している旧市民会館の記録保存調査を実施しました。11月に見学会を開催し、54人の参加がありました。 (5) 懸賞金事業を実施し、28件の情報が寄せられ資料を確認しました。 (6) 出前講座10件、保育園1園・小学校1校・中学校2校・高校1校・大学1校の支援を実施しました。3月に市民説明会を開催し、51人の参加がありました。 (7) 11月に上田城トークショーを開催し、約800人の参加がありました。 以上の取組により、多くの市民の皆さんから城跡の保存活用について理解と関心が寄せられ、効果的な機運醸成を図ることができました。		
総合評価	A		
今後の課題等	武者溜り整備は、三十間堀の発掘調査を実施して位置をより正確に特定する必要があるとあり、また石垣や土塁の遺構の残存状況についても確認する必要があります。調査結果を踏まえて整備方法を検討し、整備基本計画で具体的に示すことが必要です。 また、今後もいっそう櫓復元の機運醸成を図るとともに、櫓に関する資料やデータを収集し、早期復元に向けて有識者等の検討と見解を得ることが必要です。		
上田 市 教 育 行 政 評 価 懇 話 会	委員 から の 意 見	上田城櫓復元の取組は調査だけでなく、桜まつりや紅葉まつりで来場者と直接話せるブースを設けるなど、子どもたちにまで活動を広める取組を行った点を高く評価します。今後も、ケーブルテレビでの情報発信や現地説明会等、市民のシビックプライド醸成につながる取組が継続されるよう、全庁的な体制で取り組むことを期待します。	
	意見 に 対 する 考 え 方	都市建設部をはじめとした庁内関連部局との連携強化の成果を実感しています。櫓復元の機運醸成や城跡の魅力発信等の取組では、ブース内で城絵図パズルやミニ石垣積み体験等を行い、夜の北櫓でトークショーを開催するなど、文化財保護部局だけでは発想もできなかったアイデアにより、幅広い世代の皆さん、特に子どもたちに上田城の価値や魅力を体感していただく機会を創出できました。今後も新しい視点で、市民の皆さんが城跡整備について理解や関心を寄せていただけるよう、取組を充実してまいります。そして、市民の皆さんの櫓復元に対する機運をいっそう醸成するとともに、旧市民会館の解体と武者溜りの整備を着実に進め、早期に7つ櫓の復元が叶うよう努めます。	
今後の方針等	武者溜り整備は、旧市民会館の解体工事と並行して、引き続き発掘調査等を実施して必要なデータの取得に努め、専門家会議等の意見を踏まえながら、上田城跡整備室と連携して整備基本計画の改訂を急ぎます。 櫓の復元は必要な発掘調査を行うとともに、櫓復元推進室と連携して出前講座やPRイベントのほか、櫓に関連する資料や建造物の調査を実施します。		

令和6年度 事業評価シート

3-③

事業名	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	担当課	生涯学習・文化財課 博物館
当初目標	(1) 信州上田ふるさと先人館の展示の充実と、情報発信に努めます。 (2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館において企画展、体験教室等を開催します。 (3) 市立博物館の施設リニューアルに向けて関係部署と連携して検討します。 (4) 発掘した文化財などの活用を図ります。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 信州上田ふるさと先人館事業	2,698	
	「出張どこでも先人館」 8回	0	
	(2) 市立博物館 企画展 2回、講座13回	738	
	信濃国分寺資料館 企画展 3回、体験教室 1回、講座 3回	176	
	(3) 上田城跡WG会議等（他課連携）での検討会（5回）	0	
	(4) クジラ類化石発掘調査・クリーニング作業	65	
	夏休み子ども自然体験学習「親子向けクジラ化石講座」 1回	0	
	調査状況の報告会・講演会	8	
目標の達成状況	(1) 公民館や櫓復元推進室、市民団体及び民間団体と連携して「出張どこでも先人館」を8回実施しました。 (2) 市民をはじめ県内外からの来館者へも上田市の歴史を発信できました。 (3) WG会議での検討会や公共施設再配置プロジェクト勉強会を発足し、新しい博物館の施設整備について他課と連携を図りながら認識を深めることができました。 (4) クジラ類化石のクリーニング作業を進めるとともに、公民館と連携した講座を開催したほか、作業の進捗等の市民報告会・講演会を開催しました。		
総合評価	B		
今後の課題等	(1) 郷土の先人に興味を持ってもらえるよう情報発信を進めるとともに、先人館以外の場所でも先人を紹介し、情報に触れる機会を創出していく必要があります。 (2) 博物館、資料館の企画展や講座では、市民のニーズに応えるとともに、上田市の歴史を魅力的に発信することで観光施設としての役割も担う必要があります。 (3) 市立博物館及び信濃国分寺資料館は、施設の老朽化が著しく、収蔵庫も飽和状態であるため、新たな施設整備の検討を進める必要があります。 (4) クジラ類化石のクリーニング作業を進めながら情報発信に努め、今後の評価を見定めるなかで公開に向けた研究を進めるとともに、市民や子どもたちの学びの教材として活用を図る必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①「出張どこでも先人館」の取組については、非常に有意義なものであると考えます。今後は、小学校での巡回展示等、より幅広い世代へ郷土の歴史や文化に関心を持ってもらえるような取組を期待します。 ②市立博物館及び信濃国分寺資料館の老朽化については、非常に大きな課題であると考えます。収蔵庫も飽和しており、資料の管理が難しい状況であるため、新たな施設整備の検討が早急に進められることを期待します。	
	意見に対する考え方	①偉人、先人の顕彰事業については、公民館や民間施設などとの連携、関連するイベントなどでの出張展示を行い、引き続き広く周知できるよう努めていきます。また、学校等とも連携し、子どもたちが地域の偉人や先人について関心を持てるよう、出張展示など学びの機会の提供について模索していきます。 ②新たな施設整備に向け、引き続き財政部局をはじめ都市計画や上田城跡整備等の関係部署とも活発な協議を進める一方で、有利な国の補助金制度についても研究していきます。	
今後の方針等	(1) 展示内容の充実を図るとともに、イベント会場や公民館、学校などでの展示を行い、周知と情報発信に努めていきます。 (2) 来館者のニーズに応える企画展や講座を開催することで、シビックプライド醸成や文化的意識の高揚に寄与します。また、館のホームページや市の公式SNSも活用しながら企画展等の情報を発信し、観光誘致の一助となるよう努めます。 (3) 施設整備は、関係部署との連携を図り、計画的に取り組みます。 (4) クリーニング作業や調査の進捗に応じて可能な情報発信や公開を進めるとともに、市民向け（子ども中心）学びの教材として活用を図るため、公民館や学校と連携し、学習や体験活動に取り組みます。		

令和6年度 事業評価シート

4-①

事業名	第三次生涯学習基本構想の策定	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	現在の「第二次生涯学習基本構想」が令和7年度末をもって計画期間が終了することから、新たな基本構想の策定に向け、生涯学習に関する市民意識調査を実施するとともに、生涯学習基本構想策定委員会を設置し、諮問に応じた調査審議を行います。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 生涯学習基本構想の策定の推進		
	生涯学習に関する市民意識調査の実施等	1,375	
	(2) 生涯学習基本構想策定委員会の設置及び諮問に応じた調査審議		
	策定委員会の設置及び開催	130	
	(3) 生涯学習の先駆的活動である上田自由大学等の顕彰		
	上田自由大学等をテーマとした事業の実施	0	
目標の達成状況	(1) 基本構想策定に向け庁内関係課会議を2回（9月、11月）開催しました。また、市民の生涯学習への関心及び実態を把握し、策定方針及び基本計画等を検討するための基礎資料として、18才以上の市民2,000人を対象に生涯学習に関する市民意識調査を実施しました。（調査期間：1/10～1/31） (2) 各種関係団体等からの推薦を含め18名の方に生涯学習基本構想策定委員を委嘱し、基本構想策定委員会を2回（11月、3月）開催しました。 (3) 市民団体と協働し、自由大学運動100年記念フォーラム・プレ学習会「市民ゼミナールへのいざない」（3回、7/20、8/24、10/12）及び「自由大学運動100年記念フォーラム」を開催しました。（11月、53名参加）自由大学が求めている「学び・学び合うこと」を「ゼミナール」の試みにより参加者が体験し、これからの「学びの姿」を考える機会となり、自由大学の精神をいかに未来へつなげていくかを考える機会になりました。		
総合評価	B		
今後の課題等	生涯学習に関する市民意識調査の分析・評価、これまでの取組の検証を踏まえ、第三次生涯学習基本構想の策定を進める必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①市民意識調査の実施により、市民の学習状況や学習希望、情報入手経路、そして社会教育施設の利用状況や期待することなど、貴重なデータが得られたものと思われますので、これらを最大限に活用し第三次生涯学習基本構想の策定を進めることを期待します。 ②上田自由大学の取組は非常に誇りの持てる取組であることから、今後も学びの場でその土壌を受け継いでいくことを望みます。	
	意見に対する考え方	①市民意識調査結果を基礎データとして、第三次生涯学習基本構想の策定を進めるとともに、今後、具体的な取組のなかでも調査結果を活用していきます。 ②自由大学運動100年記念の事業については令和6年度で一区切りとなりますが、今後も生涯学習の先駆的活動といえる上田自由大学の理念や精神を大切に、さまざまな生涯学習の取組を推進していきます。	
今後の方針等	生涯学習に関する市民意識調査やこれまでの取組の検証を基礎資料として、第三次生涯学習基本構想の策定を進めていきます。		

令和6年度 事業評価シート

4-②

事業名	地域とともにある学校づくりの充実	担当課	生涯学習・文化財課 学校教育課
当初目標	地域ぐるみで学校を支えていく取組の推進と地域における交流・情報交換の支援に取り組めます。 学校支援ボランティア活動の推進を図るため、各学校で取り組む活動を紹介します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 学校支援プロジェクト会議の開催	0	
	学校支援ボランティア交流会等の開催	53	
	(2) 学校支援ボランティア活動の広報（活動内容の紹介）	0	
	リーフレット、学校支援だより等による取組紹介	206	
	ホームページ等で活動紹介	0	
	出前ときめきのまち講座で取組紹介	0	
	(3) ボランティア活動保険の加入	544	
目標の 達成状況	(1) 学校支援プロジェクト会議を3回開催し、学校支援の関係者の交流、研修の機会として、学校支援ボランティア交流会（69名参加）、読み聞かせボランティア交流会（41名参加）、コミュニティルーム見学会（2回、57名参加）に取り組みました。他校の取組を知ることによって自身の活動を振り返り今後の活動への活力を得る機会となり、新たなコミュニティルームの開設や関係者同士の主体的な交流会等につながりました。 (2) 学校支援の関係者に学校支援プロジェクト会議の取組等を紹介するため、学校支援だよりを2回（8月、10月）発行しました。 また、事業の周知と支援者の広がりに向けて、昨年度作成の「地域とともにある学校づくり」リーフレットを増刷し、全小中学校PTAに配布しました。あわせて、市内小中学校の取組をホームページで紹介しました。 そのほか、コミュニティスクールについて理解を深めるための出前講座を実施しました。（2回、69名参加） (3) 学校支援ボランティア参加者が安心して活動できるようボランティア活動保険に加入しました。（1,554名）		
総合評価	B		
今後の課題等	「地域とともにある学校づくり」を持続可能な取組にしていくために、引き続き現在活動している関係者への支援が必要です。 また、ボランティアなどの高齢化・固定化が課題であり、新たな担い手を育成するために、より多くの方に取組を知っていただくことが重要です。 「学校を核とした地域づくり」という視点も含めた取組を行うことが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	学校支援ボランティアについては、コミュニティルームでの地域の方と児童・生徒とのふれあい等のように、支援する側とされる側といった関係性から、お互いに楽しみながら双方にとって良い影響をもたらす関わりに変化してきていることを評価します。学校支援ボランティアの高齢化や後継者不足等の課題解決には、行政の立場からの支援が必要であると考えます。	
	意見に対する考え方	学校支援ボランティア活動を持続可能な取組にしていくために、ボランティアの高齢化や固定化は大きな課題と捉えています。新たな担い手を育成するために、活動について広く周知を図る取組を進めるとともに、現在活動している関係者の情報交流や研修の場を設け、課題解決に向けてお互いの工夫を学びあう機会を提供します。また、各校の状況に応じた伴走支援ができるよう情報収集や情報共有に努めます。	
今後の方針等	各学校での取組について情報収集を行うなど理解を深めながら、学校支援プロジェクト会議による関係者への交流会・研修等の開催により、関係者の意欲の向上やつながりづくりを進め、持続可能な体制の強化や改善を図ります。また、学校支援活動の推進と定着に向けて、活動紹介を引き続き行うとともに、学校と家庭、地域の連携を強化するため、地域の方々などが学校づくりにより参加しやすいよう各校の状況に応じた伴走支援を行います。 「学校を核とした地域づくり」という視点について理解を深めるため、研修会等へ積極的に参加し、情報共有を行います。		

令和6年度 事業評価シート

4-③

事業名	人権同和教育・啓発の推進	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	(1)「上田市人権施策基本方針」に基づく人権同和教育・啓発を推進します。 (2)人権尊重の精神が日常的に発揮できる講演会・研修会等の事業を実施します。 (3)地域（自治会・分館）の主体的な人権学習活動を支援します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校人権同和教育	4,291	
	地域人権同和教育	1,122	
	社会教育団体等人権同和教育の推進	290	
	企業人権同和教育の推進	200	
	市民団体との協働による人権啓発	2,738	
目標の 達成状況	上田市人権啓発推進委員会においては、10月にNHK大相撲解説者で元小結の舞の海秀平氏を講師に迎え、「人権を考える市民のつどい」を開催しました。約1,200人が参加し、人権について考える良い機会となりました。また、2月には、西部公民館を会場に「うえだ人権フェスティバル」を開催し、人権作品の表彰や作品発表、水平社博物館長の駒井忠之氏による講演会を行いました。（延べ500人参加） 11月開催の人権担当者研修会においては、多様な人権問題について話し合うことを通して、社会教育関係団体等の人権担当者の資質の向上、層の拡大を図りました。 令和6年度から「地域における人権学習事業」を開始し、地域（自治会・分館）における主体的な学習事業を促進し、人権尊重の意義と人権課題を学ぶ機会を支援しました。 近年増加しているインターネットによる人権侵害については、学校や地域等で講演会や学習会を行い、情報リテラシーを深める教育を推進しました。また、差別事象について、人権共生課と共に検討を行いました。 小中学校においては、児童生徒・学校教職員の人権同和教育授業、授業研究、研修会、講演会等を行い、人権同和教育と啓発の推進を図りました。		
総合評価	B		
今後の課題等	近年SNSによる差別事象も増加してきていることから、今後、このような差別が起きないように人権同和教育と啓発を推進していく必要があります。 また、市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に移せるような、有意義な講演会や研修会等を企画、実施し、人権同和教育と啓発を着実に推進していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	子ども自身が自分の人権を大切に、友達の人権を侵害しないような振る舞いを身につけて生きていくことが、これからの時代にとって非常に重要なことだと考えます。子どもの人権についても、1つのテーマとして取り上げ、重要課題にさせていただくことを望みます。	
	意見に対する考え方	子どもたちを取り巻く環境は、核家族化、デジタル化、価値観の多様化など、昨今の社会的背景によって大きく変化してきていますが、地域で主体的に実施されている人権学習活動でも、「子ども・若者」については、関心が高いテーマの一つとなっています。 すべての子どもたちが自らをかけがえのない存在と実感できるとともに、相手を尊重し、互いに支え合えるまちづくりを進め、心豊かな子どもを育てていく社会を目指し、子どもたちを取り巻くさまざまな人権課題を学ぶ機会についても、重要な取組として引き続き支援してまいります。	
今後の方針等	講演会等の参加者アンケートでは、8割の方が人権について理解が深まったと回答しています。市民意識調査の結果からも、講演会や研修会の開催は実施方法として有効であると認められるため、これまでどおり教育と啓発活動の中心に据えて推進します。また、必要に応じてICTを活用するなど、一人でも多くの方々に参加していただける方法を工夫したり、啓発活動の実施に取り組んでまいります。 学校、家庭、地域、企業・職場など様々な場を通じて人権教育及び啓発を推進してまいります。 近年増加しているインターネットによる人権侵害に対しては、情報モラルについて理解を深めるための教育・啓発の充実や、情報を正しく安全に利用するための情報リテラシーを深める教育の推進に努めてまいります。		

令和6年度 事業評価シート

4-④

事業名	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	(1) 子どもの成長に重要な体験活動や集団遊びに触れる機会を増やすため、モデル的な自然体験活動等の実施や地域（自治会等）単位の体験活動を支援します。 (2) 子どものインターネットの利用状況が課題とされる中、適正利用の啓発に取り組みます。 (3) 地域（自治会・分館）の主体的な青少年育成学習活動の支援に取り組みます。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1) 子どもを主な対象とした、地域の自然体験活動及び集団遊び事業		265
	上田市子ども会育成連絡協議会との連携による自然体験活動の促進		367
	(2) インターネット・スマートフォン適正利用啓発リーフレット作成		108
	(3) 地域におけるこどもまんなか社会学習事業		534
目標の達成状況	(1) 子どもを主な対象とした、地域の自然体験活動及び集団遊び事業を実施したほか、各地区の育成会へ体験活動支援事業補助金を交付しました。 (2) 長野県が実施した小中学生のインターネット、スマートフォン利用に関するアンケート調査結果を踏まえ、市内小中学校の全児童・生徒等へ配布する適正利用啓発リーフレットを発行・配布しました。 (3) 令和6年度から「地域におけるこどもまんなか社会学習事業」を開始し、地域（自治会・分館）における主体的な学習事業を促進し、こども・若者を取り巻くさまざまな課題を学ぶ機会を支援しました。		
総合評価	B		
今後の課題等	(1) 体験活動は、子どもの成長に良い影響を与えているとの調査研究が報告されています（令和2年文部科学省）。保護者や地域の大人がその重要性を理解し、身近な場所でこれらの機会を増やしていく必要があります。 (2) インターネット・スマートフォンの適正利用に関し学校・保護者・地域の連携を進め、未就学児の親への啓発についても、情報交換を進めていく必要があります。 (3) 全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活ができる社会実現のため、大人がこども・若者を取り巻く課題を主体的に学ぶ必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	① 子ども向け体験事業の実施は今後も継続を期待します。また、育成会への事例紹介や「こどもまんなか社会学習事業」における課題学習等を通じて得た学びを、我々大人が今後どのように活かすのかという視点に踏み込んだ取組を期待します。 ② 「こどもまんなか社会学習事業」は、少子化という社会的背景を踏まえ重要な意義を持つものです。各地域で子どもを支援し成長を支えていく重要な取組として、その充実を期待します。	
	意見に対する考え方	① 子どもたちが体験活動に参加するうえで、地域の子ども会等の活動が最も重要です。その担い手である保護者や地域の大人に、事例紹介や研修会、市が主催する体験活動への参加を通じて「体験活動は子どもたちの非認知能力の向上に資する」という重要性、そして「育成会活動等の地域活動が子どもの生きる力の基盤を作る役割を果たしている」という社会的意義の両面に気付く機会を設け、地域での主体的で活発な活動につながる動機づけを行っていきます。 ② 参加者が「こどもまんなか社会学習事業」を通じて子どもたちを取り巻く課題を学び、「地域で取り組める課題解決」という視点での学習会活用が図られるよう務めると共に、引き続き学習事業に参加する子どもたちの意見に大人が耳を傾け、対話や思いの共有ができる学習会の開催を推奨していきます。	
今後の方針等	(1) 体験活動や集団遊びの重要性を学ぶ機会を継続的に作ります。また、自治会単位の育成会の活動事例の共有や研修会を通して、地域での新たな取組が始まる動機づけを行います。 (2) インターネット・スマートフォンの適正利用のため、啓発リーフレットの内容を工夫するとともに、リーフレットの活用が家庭で図られるよう努めます。 (3) 「こどもまんなか社会学習事業」による地域での主体的な学習事業を通じて、子どもたちを取り巻く課題を大人と子どもが共に学び、対話等を通じてその解決に地域で取り組むきっかけを作ります。		

令和6年度 事業評価シート

4-⑤

事業名	公民館事業の充実	担当課	中央公民館 生涯学習・文化財課
当初目標	(1)「公の施設における使用料等の考え方」を踏まえた使用料の見直しを行います。 (2)分館活動に対する支援を充実・強化します。 (3)公民館利用者の利便性の向上について検討します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1)行政管理課等の担当課との情報共有及び連携		0
	公民館運営審議会及び利用者登録団体への説明の実施		0
	公民館だより、ホームページ、フェイスブック等による周知		0
	(2)分館活動の手引きを作成し、各分館に配布		246
	公民館ごとに相談窓口を設置し助言等を実施（相談件数700件）		0
	(3)職員プロジェクトチームを設置し、予約システムの導入等の検討		0
	予約システム導入自治体への視察の実施		0
目標の 達成状況	(1)使用料の見直しについて、各公民館運営審議会や利用者登録団体に対して説明を行いました。併せて、公民館だよりやホームページ、フェイスブック等、さまざまな媒体を通じて周知に努めました。 (2)分館活動を進める手順等を記した手引きを配布するとともに、分館からの相談に対し必要な情報提供や助言、スポーツ用具の貸出等、きめ細やかに分館活動を支援しました。また、分館との共催事業については、役員の意見を踏まえ事業内容の見直しを図る等、分館の負担軽減を図りながら事業を実施しました。 (3)公民館職員によるプロジェクトチームを設置し、予約システムの導入や利用の拡大に向けた課題を検討しました。		
総合評価		B	
今後の課題等	(1)使用料の見直しに伴う混乱が生じないように、引き続き丁寧に対応していく必要があります。 (2)少子高齢化や担い手不足等により分館活動の実施が困難な状況にあります。分館活動の推進に係る研修会や分館の負担軽減に配慮した共催事業の実施など、分館活動を支援していく必要があります。 (3)さらなる利便性の向上を図るため、施設利用や予約方法について検討していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①新たな利用者層の取り込みや負担軽減のため、予約システムの導入を検討している点は評価できますが、システムを利用出来ない方が不利にならないよう、引き続き配慮が必要であると考えます。 ②分館活動の負担軽減を強力に推し進めることで、意思疎通や連携に支障をきたさないよう、配慮しながら進めていくことを望みます。	
	意見に対する考え方	①予約システムの導入は、利便性の向上及び利用促進並びに新規利用者の開拓を趣旨としております。導入にあたっては、説明会や使い方講座を実施するとともに現行の予約方法も並行して行うなど、利用に不便が生じることのないよう努めてまいります。 ②分館活動の負担軽減に配慮しつつ、住民同士の親睦の深まりや地域の活性化等、分館活動の重要性を共有し、事業を進めてまいります。	
今後の方針等	(1)(3)使用料の見直しについては引き続き丁寧に対応していくとともに、予約システムの導入等も検討し、住民にとって利用しやすく、集い、学ぶ公民館を目指していきます。 (2)分館は、公民館とともに地域づくりを支える中心的な組織であり、地域の実情を把握しながら分館活動を丁寧に支援します。		

令和6年度 事業評価シート

4-⑥

事業名	図書館サービスの充実	担当課	上田図書館 生涯学習・文化財課
当初目標	(1) 古文書や郷土資料等貴重資料のデジタルアーカイブ化と利活用を推進します。 (2) 学校連携による子ども読書活動を推進します。 (3) 上田図書館改築における整備計画策定に向けて準備を進めます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 貴重資料「花月文庫」資料のデジタルアーカイブ化	0	
	(2) 学校図書室司書との情報交換、読書支援のための研修会（小中学校）	0	
	学校図書室の現状把握、学校からの要望事項の検討（高校）	0	
	(3) 市内4図書館職員によるプロジェクトチームを組織して検討作業を実施	0	
目標の達成状況	(1) 上田市スマートシティ化推進計画にデジタルアーカイブ事業を位置付けるとともに、上田図書館所蔵の貴重資料「花月文庫」のうち46点の資料のデジタルアーカイブ化を実施しました。 (2) 小中学校は、学校図書室司書との情報交換を行い、子どもの読書支援のための研修会を実施しました。高校は、学校図書室の現状把握と情報収集を行い、学校からの要望事項について検討しました。 (3) 整備のための財源や整備手法（単独・複合等）について庁内で検討を進めました。新上田図書館の基本的な整備内容は令和7年度に策定する予定の第三次上田市図書館基本構想の中で検討し、定めていくこととしました。		
総合評価		B	
今後の課題等	(1) 花月文庫以外の貴重資料について、「何を、いつ、どのように」デジタルアーカイブ化していくのか、方針を定める必要があります。 (2) より良い連携を図るために、情報交換を継続し、学校図書館の現状や要望を把握していく必要があります。 (3) 上田図書館の整備は、これからの図書館に求められる機能や市のまちづくりの中で果たす役割を踏まえ、市民のニーズを取り入れながら、基本構想を早急に策定する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①貴重資料のデジタルアーカイブ化を着実に進めている点を評価します。今後も、既に他の機関でアーカイブ化されているものと重複しないように計画的に進めていくことで、より意義のある取組になると考えます。 ②現代社会では、子どもから大人まで活字離れが進んでいる傾向が見られます。読書習慣の定着は、思考力や表現力の向上にもつながるため、子どもたちが読書に親しみを持てるような施策の推進を期待します。 ③上田図書館の改築については、先行事例も研究しながら引き続き検討していくことを望みます。	
	意見に対する考え方	①デジタルアーカイブ化の手段や方針について引き続き検討していくとともに、既にデジタル化され公開されている資料についても、周知を図ってまいります。 ②子どもの読書活動推進については、公共図書館や学校で職員や読書ボランティアの方々による読み聞かせの実施や学校図書館との連携強化、市内を巡回する移動図書館車のデザインを子どもたちに親しみが感じられるものへ変更などの取組を進めています。今後も学校や地域のボランティアの方々や連携して取組を進めてまいります。 ③上田図書館の改築については、他自治体の事例研究や、専門家にお話をうかがうなど、情報収集を進めています。今後の検討にあたっては、社会情勢の変化や財政状況を踏まえ、他施設との複合化・集約化なども視野に入れて、進めてまいります。	
今後の方針等	令和7年度は第二次上田市図書館基本構想の最終年度のため、第三次上田市図書館基本構想を策定していきます。構想の中で、今後のデジタルアーカイブ事業の方針、子どもの読書活動の支援方針、上田図書館の基本的な整備内容等を定めていきます。		